

第13次航海中に観察した主要海鳥の出現記録

青 柳 昌 宏*

Occurrence Records of Principal Sea Birds during the Cruise of the 13th Japanese Antarctic Research Expedition

Masahiro AOYANAGI*

Abstract: 1. Sea birds were observed during the cruise of the 13th Japanese Antarctic Research Expedition from December 1971 through April 1972.

2. The principal species observed are as follows: 1 species of Family *Spheniscidae*, 6 species of Family *Diomedeidae*, 11 species of Family *Procellariidae*, 2 species of Family *Hydrobatidae* and 1 species of Family *Stercorariidae*; 21 species in total.

3. The sea birds distribution on the Subantarctic and Antarctic Ocean was found to be considerably depending on the latitude.

1. ま え が き

筆者は第13次航海中、フリーマントルからケープタウンに至る間、往路は1971年12月17日より30日まで、帰路は氷縁を出発した1972年3月28日から4月7日まで、海鳥の目視記録をとることができた(図1)。

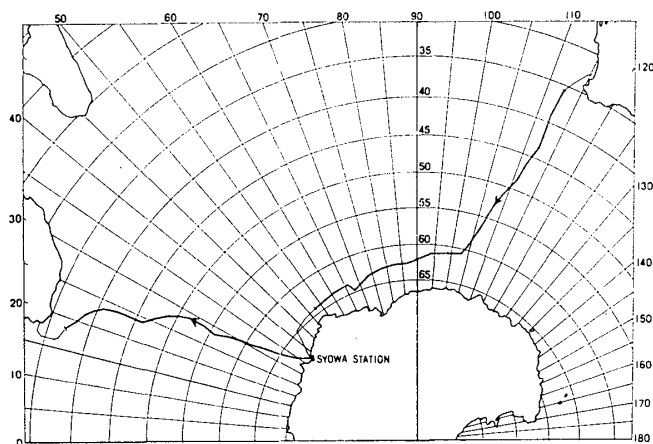


図1 「ふじ」の航路と観察区間
Fig. 1. Cruise route of the icebreaker
FUJI. Two bold lines show the
courses of this observation.

* 東京教育大学雑司ヶ谷分校. Zoshigaya Branch, Faculty of Education, Tokyo Kyoiku University, Mejiro-dai, Bunkyo-ku, Tokyo.

夏季の南極海における海鳥の分布については OZAWA (1967) の労作があって、主要種の分布域についての整理がなされている。南極地域観測隊においては第4次隊の HAGA (1961) が Antarctic convergence 以南で 14 種を記録しているが、種名を列記して 2~3 行ずつ説明を加えた簡単なものである。また、第9次隊の柏谷 (1968) はそのテーマに大陸沿岸の鳥類分布の研究をあげている。「ふじ」の航路沿いに海鳥を観察し、まとめた報告はないようなので、発表しておきたい。

本報告をまとめるにあたり、航海中海鳥の発見に総力をあげて協力下さった「ふじ」関係者各位に深甚の謝意を表したい。東京教育大学名誉教授下泉重吉博士には、筆者の観測隊参加にお力添えを下さった。記して心から謝意を表したい。

2. 観測方法

フリーマントル出港後12月17日から20日までの3日間は0500より30分ごとに2000まで、鳥種別の10分間個体数カウントを、21日から23日までの3日間は1時間ごとに毎正時の10分間カウントを続けた。30分ごとのカウントは、間隔が短かすぎて個人の仕事としては忙しすぎ、やや疲労を覚えた。1時間ごとのカウントは無理なく実施できた。この6日間のカウントで個体数を5段階に区別して記録できるようになったので以後、午前と午後の適時、すくなくとも1日6回以上、10分間ずつの記録をとった。記録は卍, 卍, +, -, r の記号で午前・午後に分けて整理した。記号の内容は次のようにした。卍, 大きい群をなしている。卍, 多数-多数認められる。+, ふつう-10分間絶えず1羽以上認められる。-, 時々-10分間に2回以上出現する。r, 稀-10分間に1羽1回認められる。カウントは飛行甲板でおこない、荒天時は観測甲板に移ったが、飛行甲板では艦首側30度の視野が欠け、観測甲板では90度の視野が欠けた。種の判定は8倍の双眼鏡によった。

3. 出現種

観察期間中に出現し、確実に同定のうえ記録した鳥種は次の21種であった。学名、英名、和名の順に並記する。種の配列は OZAWA (1967) に従った。4種の写真を添える。

Scientific name	Common name	Japanese name
Family <i>Diomedeidae</i> :	Albatrosses:	アホウドリ科
1. <i>Diomedea exulans</i>	Wandering albatross	ワタリアホウドリ(写真1)
2. <i>D. melanophris</i>	Black-browed albatross	マユグロアホウドリ

- | | | |
|--------------------------------------|--------------------------------|-------------------|
| 3. <i>D. chrysostoma</i> | Grey-headed albatross | |
| 4. <i>D. chlororhynchos</i> | Yellow-nosed albatross | |
| 5. <i>Phoebetria palpebrata</i> | Light-mantled sooty albatross | ハイイロアホウドリ |
| 6. <i>P. fusca</i> | Sooty albatross | ススイロアホウドリ(写真 2) |
| Family <i>Procellariidae</i> : | Petrels, Shearwaters, Fulmars: | ミズナギドリ科 |
| 7. <i>Macronectes giganteus</i> | Giant petrel | オオフルマカモメ |
| 8. <i>Procellaria aequinoctialis</i> | White-chinned petrel | アゴジロフルマカモメ |
| 9. <i>Daption capensis</i> | Cape pigeon, Cape petrel | マダラフルカモメ(写真 3) |
| 10. <i>Fulmarus glacialisoides</i> | Silver-grey fulmar | ギンフルマカモメ |
| 11. <i>Thalassoica antarctica</i> | Antarctic petrel | ナンキョクフルマカモメ(写真 4) |
| 12. <i>Pagodroma nivea</i> | Snow petrel | ユキドリ |
| 13. <i>Halobaena caerulea</i> | Blue petrel | アオドリ |
| 14. <i>Pachyptila</i> Spp. | Prions | クジラドリ |
| 15. <i>Pterodroma mollis</i> | Soft-plumaged petrel | |
| 16. <i>P. incerta</i> | Schlegel's petrel | |
| 17. <i>Puffinus gravis</i> | Greater shearwater | |
| Family <i>Hydrobatidae</i> : | Storm-petrels: | ウミツバメ科 |
| 18. <i>Oceanites oceanicus</i> | Wilson's storm-petrel | アシナガコシジロウミツバメ |
| 19. <i>Fregetta tropica</i> | Black-bellied storm-petrel | クロハラウミツバメ |
| Family <i>Stercorariidae</i> : | Skuas: | トウゾクカモメ科 |
| 20. <i>Stercorarius skua</i> | Southern skua | オオトウゾクカモメ |
| Family <i>Spheniscidae</i> : | Penguins: | ペンギン科 |
| 21. <i>Pygoscelis adeliae</i> | Adélie penguin | アデリーペンギン |

14の *Pachyptila* 属は捕獲しないと種の同定は困難なので総称として Prions クジラドリを用いた。20のオオトウゾクカモメには亜南極海に分布するものと、大陸で繁殖して沿岸に分布するものとの2亜種が知られているが、区別しなかった。コウテイペンギン *Aptenodytes forsteri*, Emperor penguin は観察区間では出現しなかったが、リュツォ・ホルム湾の定着氷上では観察された。またアジサン *Sterna* sp. の群が、52°E から 43°E にかけての浮氷上に見られた。これは過去の航海では記録されていない。おそらく Antarctic Tern, *Sterna vittata* であろうと思われる。

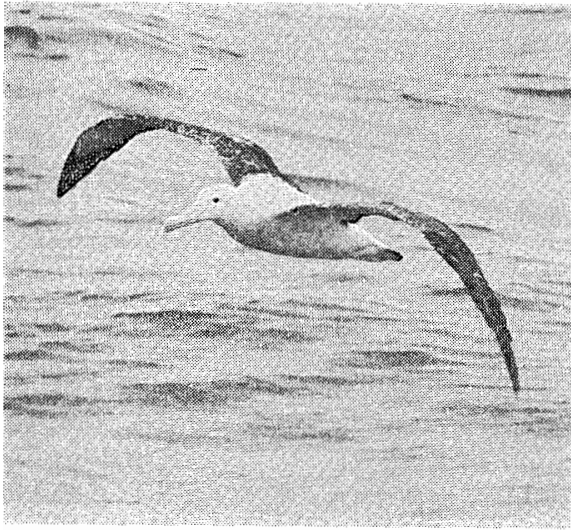


写真 1 ワタリアホウドリ成鳥
Photo 1. *Wandering albatross, adult.*



写真 2 ススイロアホウドリ
Photo 2. *Sooty albatross.*

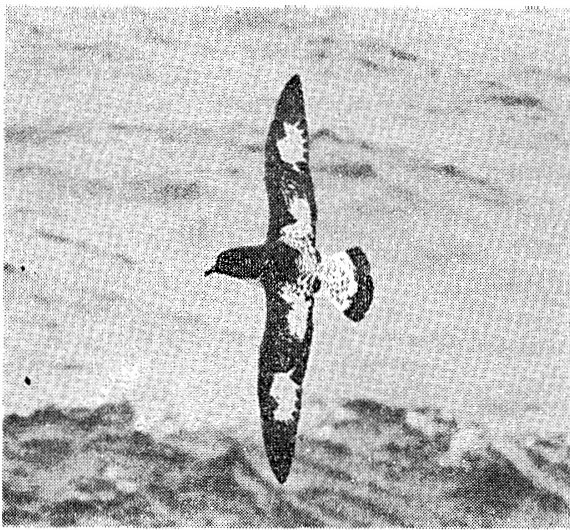


写真 3 マダラフルマカモメ
Photo 3. *Cape pigeon.*

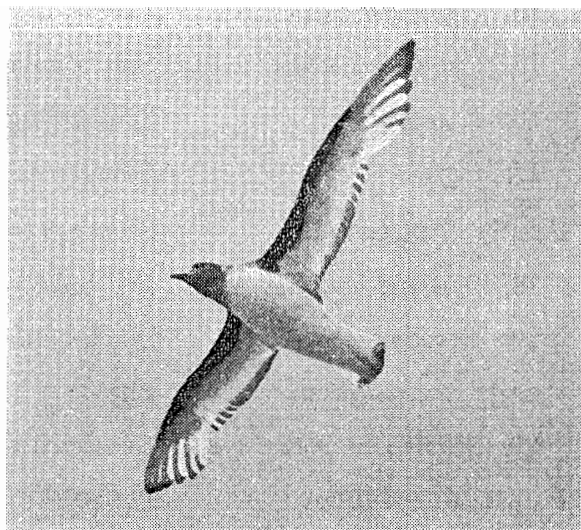


写真 4 ナンキョクフルマカモメ
Photo 4. *Antarctic petrel.*

4. 結果と考察

得られた資料を整理して、往路と帰路それぞれに緯度に従って分布を示したのが図2および3である。種ごとに出現個体数を5段階にあらわした。

往路は35°Sから氷縁にいたる鳥種の移り変りが、あきらかに3段階にわかれた。45°Sまでの優占種は *Wandering albatross* であり、45°Sから60°Sにかけては、前半 *Giant petrel*、後半 *Prions* がそれぞれ優占種となった。60°S以南では大陸沿岸性の数種、特に

図 2 往路 (フリーマントル沖からエンダービーランド沖まで)の海鳥分布. 線の太さは記録の5段階を示す(本文参照)
 Fig. 2. Latitudinal distribution of sea birds from the offing of Fremantle to the offing of Enderby Land.

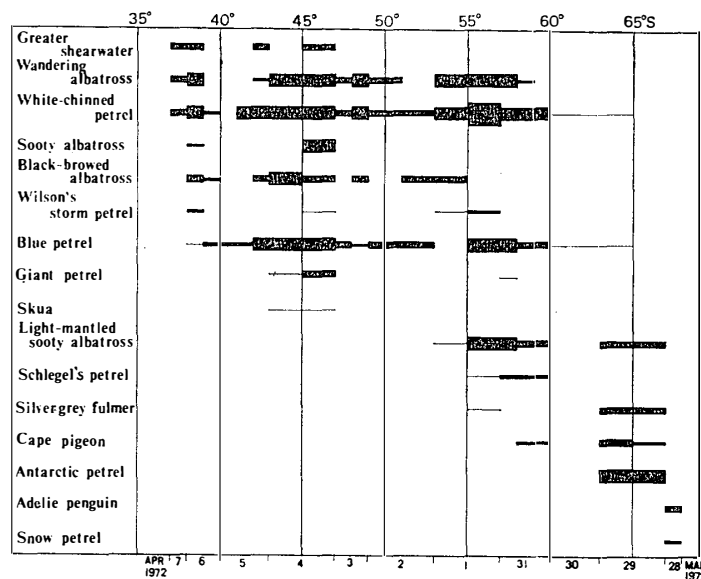
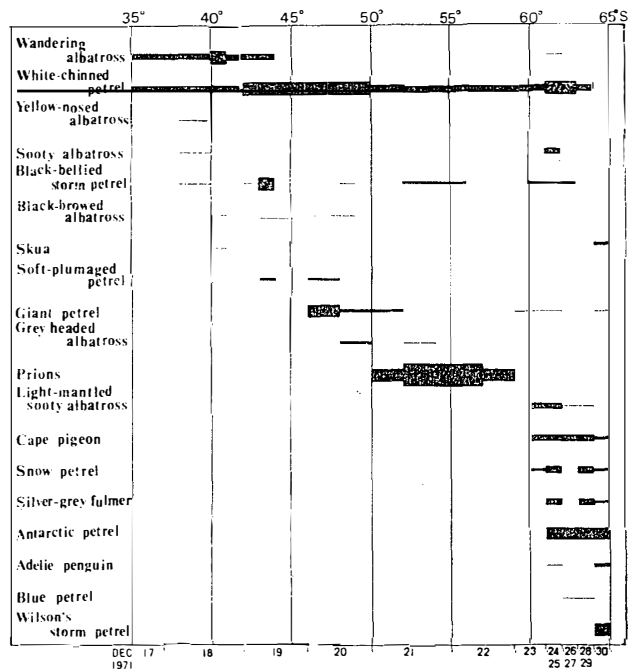


図 3 帰路 (氷縁からケープタウン沖まで) の海鳥分布. 線の太さは記録の5段階を示す (本文参照)

Fig. 3. Latitudinal distribution of sea birds from Lützw-Holm Bay to the offing of Cape Town.

Antarctic petrel の群れが目立った. 全航路を通して, 常にふつうに見られたのは White-chinned petrel 1種である. Wandering albatross は, 今回の航海がいちども低気圧に遭遇しなかったにもかかわらず 44°S, 12月19日の午前中にこつ然と視界から消え, その後24日の午後1羽を見るにとどまったことは, 従来低気圧を避けて消えるといわれていることと

思い合わせて興味深く、今後さらに調査したいことである。往路の海鳥の出現は、OZAWAの示した分布図の範囲に含まれていた。40°S から 41°S にかけての Skua は subsp. *lonnbergi*, Great skua で 64°S から 65°S にかけて記録された Skua は subsp. *maccormicki*, McCormick's skua と考えている。往路の出現鳥種は19種である。

帰路は鳥種の移り変りが、2段階で、大陸沿岸性の種が 55°S の線まで北上することと、その他の種が60°S 以北に一様に分布していることが特徴として認められた。47°S 以北に南大西洋固有の Greater shearwater が出現したことを含めて、大陸沿岸性種の北上傾向とともに、大西洋型分布を示しているといえる。Schlegel's petrel は OZAWA の分布南限線より約10度南の 60°S で認められたことは注目してよい。位置は59°40'0S, 30°56'2E, 水温 1.6°Cである。他に OZAWA の分布図との矛盾はなかった。帰路の出現鳥種は 16 種であった。

文 献

OZAWA, K. (1967): Distribution of sea birds in austral summer season in the Southern Ocean.

Antarctic Rec., **29**, 1-36.

HAGA, R. (1961): Birds and seals around Japanese Syowa Base on Prince Harald Coast, Antarctica (Preliminary). Antarctic Rec., **11**, 146-148.

(1972年11月11日受理)